

(3) 1981年12月10日

(毎月10日、25日発行)

名古屋パネルを粉碎

この勝利を
来春国会上程阻止へ

12・26意見交換会粉碎へ

刑法改正——保安处分粉碎——
障害者解放闘争に結集するすべての仲間のみなさん。

「十二・五名古屋パネル粉碎実行委」は、日弁連「名古屋パネル」を断固として阻止した。【要項案】でもって、自ら反動化を表明した日弁連に対して、徹底した自己批判要求を軸に、昨年東京、本年大阪とつづけられたパネル反対闘争によって、「パネル」が法務省による要項案が批判的検討を要す。

(3) 1981年12月10日

(毎月10日、25日発行)

名古屋バネルを粉碎

この勝利を
来春国会上程阻止へ

12・26意見交換会粉碎へ

刑法改「正」—保安处分粉碎—
障害者—解放闘争に結集するすべての仲間のみなさん。

「十二・五名古屋バネル粉碎実行委」は、日弁連「名古屋バネル」を断固として阻止した。『要項案』でもつて、自ら反動化を表明した日弁連に対して、徹底した自己批判要求を軸に、昨年東京、本年大阪とづけられたバネル反対闘争によつて、「バネル」が法務省、日本弁連のゆきの証であることが暴露されたのだ。

実行委の下に集まる五百名の部隊は、早朝より装甲車十台の物々しい警戒をくぐって、約半数が会場に指定された中小企業センターに集結、残る部隊はその後全国から結集する仲間を糾合し、西柳公園で抗議集会、デモを開始した。

判決のゆきの証であることが暴かれてきたのだ。

阪とづけられたバネル反対闘争によつて、「バネル」が法務省、日本弁連のゆきの証であることが暴露されたのだ。

金場内では「要項案」防衛に窮りたする日弁連指導部と、法務省権力の尖兵をつとめる反動弁護士グループの強硬な居直りをねのけ、わが部隊は「要項案」の徹底批判とバネルのあり方への抗議を訴えつけた。その結果、日弁連指導部は会場内の「要項案」白紙徹回の賛同気におののき、やむなくバネルの中止声明を出さざるをえなかつたのだ。

一部反動分子のぼう書に抗議して演壇上抛に出ることもあつたが、二時間におよぶ密集した討論の中で、「要項案」が批判的検討を要するものだというところは、大衆的にはつきりしたといつてよい。

この日の闘いに見られるように、保安处分粉碎、刑法改「正」反対の闘いは、全国で大きな闘いとなつていて。

こうした闘いの大衆的な展開を前に、法務省は7日、来春国会上程にむけて「全面改正案」の方向と骨格を明らかにした。七四年改正刑法草案にくらべ大幅な緩和だとアル新は書きたたが、そ

れの実「保安处分」を「治療処分」と言いかえたにすぎない。このねらいは、動搖する日弁連の最後の屈服と闘いのほこ先をそらすことがあり、何より「障害者」への差別と抑圧の強化である。

これは「治療処分」対象者の収容施設をめぐる法務省との争いに端的に示された。国立精神病院に収容せよという法務省に對し、厚生省は「犯罪を犯しつづ

て、準備会ナダレコみを追求する」とともに、「基本構想に賛成のものしか入れない」とがんばる宇佐美に「総評方針を認めないかぎり参加を留保する」とボールを投げたときのこととした。

この案にも満足しない左派にたがえしたのである。同盟が総評方

「刑法改悪を阻止するぞ!」「障害者」と連帶して闘うぞ!「労働者の声が夜の都心に響きわたつた。

十一月二七日、首都圏の労働者は「刑法改悪阻止・保安处分粉碎全労働者実行委員会」の結成をかちとつた。

この日、警察権力の集会ぼう害によって、会場を日比谷公園から銀座の水谷公園に変更させられることにも屈せず、また、おりからなる雨にもかかわらず、三百三十名の労働者が参加した。

この実行委の特徴は、七六年以來の労働争議弾圧への反撃を結集軸にして、地域的な連帯を地区実行委に表現している点である。右

の戦闘的労組、労働者が参加、冒頭に「断固闘いぬかねばなり」という「障害者」の苦闘など返り

みることは決してない、支配者の本音である。

いまこそ、刑法改悪・保安处分導入攻撃と全力での闘いを!

集会会場では警察権力の介入をはばむ自主的な入場チエックが行なわれ、デモ行進に際しても弾圧のスキを与えない規律ある組織性がわだつていて。

デモ終了後には、各地区、単産からの発言、監視弁護団の日弁連内での闘いの報告が行なわれた。

この間の経験から、私は、日本朝連帯の質を包みえない、また在日朝鮮人と具体的連帯を作り出そうとしない労働運動、政治運動は意味がないのではないかと考えています。朝鮮問題は、日本の人民、民衆運動にとって重要な問題です。

韓・日朝連帯の質を包みえない、るほど事態は単純ではないでしょ。また、「日帝打倒」を叫ぶこととそれを実行することの間には大きなギャップがあります。

私は、日韓・日朝連帯を聞いて、どうか「三里塚決戦」を聞かどろく」ということではないでしようか。「三里塚決戦」を聞かどろく。

三里塚を闘おう!新たな飛躍をかちとらねばならない。

ともにがんばりましょう。

頭大阪の五・二二実行委からのあいさつを受け、基調報告が行なわれる。基調報告は、刑法改悪が総合安保戦略に集約される、①有事体制づくり、②戦後法体系の再編、③差別、排外主義イデオロギー攻撃、④労戦の右翼統一などとともに、社会から排除・隔離・抹殺するをえなかつたのだ。

精神障害者を犯罪素因者とみなされ、社会から排除・隔離・抹殺するをえなかつたのだ。

〔読者から〕 赫旗に望む

— もっと朝鮮問題の扱いを

思います。

東京 一読者

私は、東京で日韓連帯運動に

思っています。戦に決起することが日朝連帯だ

いります。ありきたりの分析では、情勢は急転直下

ひと言。朝鮮問題の記事が少な

いようです。情勢は急転直下

います。あります。編集部では、

ひと言。朝鮮問題の記事が少な

いようですが、全力を傾けていくこ

ねる労働運動の構築のために、

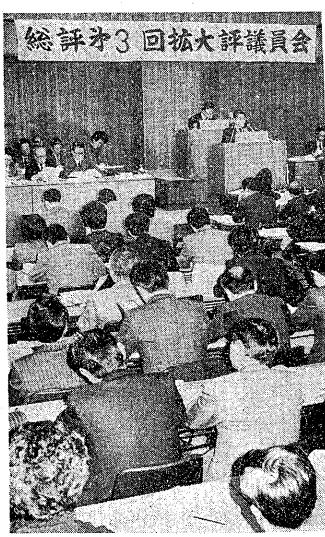
微力ですが、全力を傾けていくこ

うと思っています。「赫旗」に

おこづかで、「赫旗」に



12・7総評拡大評議員会



宇佐美発言と
左派の抵抗にゆれる

総評は十一月七日に拡大評議員会を開き、「(1)準備会は労戦統一に賛成するすべての単産に門戸を開放し、参加を決定した単産が選別排除される場合は全体として参加を留保する、(2)準備会への五項目補強見解を堅持して参加し自由な討議を保障する、(3)民間協議会は一致できる要求で共同行動を積み重ね、一致できないものについては独自行動を認める」などという原案に「準備会参加については、(1)宇佐美同盟会長発言の撤回、(2)総評=総連合意を同盟が団体間協議として確認するまで留保する」という追加補強を加えて準備会参加を決定した。

統一労組懇親四單産は「基本構想反対」の修正案をだしたが否決され、原案には、全港湾、全印連、連評首脳部は、この間問題となつたといわれている。

五項目堅持

ことによつて、「基本構想」を削つて、「針を認めなければ、労戦統一を壊す」といわれた。

したがつて、「基本構想」を「タナ上げ」めに。

一方、統一労組懇親は、自らを

したと解釈してよいとまで譲歩し

つて、「基本構想」を「タナ上げ」めに。

金港湾、全印連の発足をかちとり、女性解放闘争の前進を開始した。

金港湾、全印連の発足をかちとり、女性解放闘争の前進を

